

ムラの選挙

きたおかしんいち
北岡伸一

国連日本政府代表部特命全権大使

が、今回は選挙になった。選挙で重要なのは、まず候補国あるいは候補者（麻薬委員会は国を選挙）の実績と能力である。この点日本は、かつて台湾でアヘンを制圧した経験があり、現代でも、麻薬を押さえ込む能力では世界屈指だろう。

第二に、他の国との友好関係、

国

連には多くの選挙がある。最近では麻薬委員会（経済社会理事会の下部委員会）の選挙があった。これは、国際社会が麻薬問題に関する意思決定や立法などを行なうところである。日本は長年その委員会にいるが、今度も立候補して圧勝した。今回はアジアで改選議席4に対し、5カ国が立候補した。みんな

選挙は嫌なので事前の調整をする。4議席に4カ国になれば選挙戦はないのだが

信賴関係である。日本には普段からお世話になっているから、支持しようという国が結構ある。政府開発援助（ODA）の実績が大きい、それ以外にも日ごろのつき合いや協力が重要である。

しかし、選挙戦でもっとも重要なのは、取引である。選挙Aでウチに投票してくれたら、選挙Bではあなたに投票する、ということである。2、3年先の選挙との取引というのもあるし、1対2、1対3の取引などというのもある。取引はしばしば選挙の当日まで粘り強く続けられ、決選投票の直前に取引が成立することもある。

この点では日本は苦しい。多くの選挙に出るので、取引する持ち札が少ないのである。もう少し選挙の数を減らせば楽なのだが、それぞれの関係省庁、局、課などが後に引かない。しかも立候補の決定が遅い。選挙に強い日本が早めに立候補を宣言すれば、他国は日

本との競争を回避するのだが、それができない。こうした戦略性の欠如は、いかにも日本らしい。

最後に重要なのは、実際の選挙活動である。その要諦は、ひたすらお願いして回ることである。各国の首都と国連の両方で、電話をし、足を運び、誠意を見せることである。191の加盟国には、ニューヨークに代表部のない国もあるし、全部で2、3人ということろは少なくない。料金滞納で、半年間電気が来ないということもある。そういう国を軽視せず、ひたすらお願いするのである。

要するに、典型的なドブ板選挙、ムラの選挙である。私はこれがぜんぜん苦にならない。むしろ、いろいろな人と会えて楽しいと思っている。私だけでなく、みんなせっせとやっている。日本が選挙に強いのは、ひよっとして、こうしたムラの選挙の伝統があるからかも知れないと思っている。